

負のイメージを払拭し、地域活性化に生かす

スケートボード 資本論

——アーバンスポーツは都市を再生させるか

清水 麻帆 著



東京オリンピック以後、一般に認知されたスケートボード。全国各地でスケートパークの設置が進む。一方負のイメージが解消されず問題も指摘される。本書はスケートパークの世界の先進的事例を紹介し、スケートボードが生み出す新しい文化活動の可能性を都市政策論と文化経済学の視点から考察する、初の成果。

スケートボード資本論

——アーバンスポーツは都市を再生させるか

清水 麻帆 著 A5判 208頁 定価2,420円(税込)

ISBN : 9784880655550

2023年
12月5日
発売!

- 第1章 都市・スケートパーク・文化
- 第2章 スケートパークの盛衰
- 第3章 スケートパークと観光
- 第4章 文化資本としてのスケートパーク
- 第5章 日本のスケートボードを取り巻く現状と今後の都市政策
- 第6章 日本の事例研究～公共スケートパークの萌芽
- 第7章 日本の事例研究～東京2020オリンピックの契機
- 第8章 なぜスケートパークが都市を再生させるのか

*本書で紹介するスケートパーク事例

【公共スケートパーク】

駒沢オリンピック公園ストリートスポーツ広場(東京都世田谷区)

うみかぜ公園スポーツ広場(神奈川県横須賀市)

火打形公園スケートボードパーク(京都府京都市南区)

祖師谷公園のスケートボードスペース(東京都世田谷区)

【私設(私営)スケートパーク】

TOKYO SPORT PLAYGROUND×ART(東京都江東区)

SKATE CLUB ORION(沖縄県沖縄市)

Department Skateshop Park(岩手県花巻市)



清水麻帆(しみず・まほ)

文教大学国際学部准教授。立命館大学大学院政策科学研究科終了、博士(政策科学)。立命館大学助手、日本学術振興会特別研究員(PD)、大阪市立大学G-COE博士研究員、大正大学助教などを経て現職。専門は文化経済学・地域経済学・都市政策論。社会活動・外部委員として、文化経済学会<日本>理事、コンテンツツーリズム学会常務理事など。2013年に日本都市学会の論文賞受賞。主な著書に『「まち裏」文化めぐり「東京下町編」』(単著)(彩流社、2022)、『創造社会の都市と農村』(共著)(水曜社、2019)など。

「スケートボードのようなアクティブで自由なものを否定したり、追い出そうとするべきではない。スケートボードは健全なものであるし、それが自由の一部である」(ジェイン・ジェイコブズ)



水曜社
suiyosha.hondana.jp

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-31-7-901
TEL.03-3351-8768 FAX.03-5362-7279
全国の書店・大学生協・ネット書店などでお買い求め下さい。

